

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000041		
法人名	(株)コウケンパートナーズ		
事業所名	グループホーム アクア		
所在地	山口県光市木園1丁目4番5号		
自己評価作成日	平成26年2月20日	評価結果市町受理日	平成26年8月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは街の中心地にあり、医療、買い物と利便性の良い場所にあります。さらに、自然に恵まれホームの裏には島田川があり河川には、野鳥や魚がおり四季折々な風景を目にする事が出来、散歩が楽しめます。また、関連のスポーツジムにてマシン等を利用して筋力低下の防止に努める事も出来ます。さらに、地域の行事である盆踊りや餅つき大会に参加をしたり、当ホームの避難訓練に地域の皆さんが協力して下さったり、自治会主催の防災訓練に当ホームも参加したりと良い関係が出来ています。ホーム内ではご家族様と入居者様が一緒に参加できる行事もありみなさんで楽しむことが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会に加入しておられ、2か月に一回地域向け事業所だよりを作成されて、関係者に配布されると共に、地域内に回覧しておられます。地域と協力して「認知症サポーター養成講座」を実施しておられる他、利用者が盆踊りやしめ縄づくりなどの地域の行事にも参加され、餅つきでは利用者が主となって力を発揮されています。散歩時の声かけがある他、お菓子や野菜の差し入れなど、地域の人と日常的に交流しておられます。事業所の避難訓練に地域の人が参加されたり、地域の自主防災会の連絡網に事業所が加入され、通報訓練や津波を想定した訓練等に利用者も一緒に参加しておられるなど、災害時の地域との協力体制を築いておられます。家族との連携も深く、家族も参加出来る行事にも取り組まれ、花見と一緒に家族交流会やサービス担当者会議、家族向け事業所便りや利用者個々の近況報告も毎月行われ、2日に1回、ボランティアとして事業所を訪れ楽器演奏を提供される家族もおられ、利用者も一緒に歌や音楽を楽しんでおられます。地域や家族との交流や職員の支援により、利用者同士の関係も穏やかで温かく、居室は思い思いに装飾され、張り合いを持って、楽しく、安心して過ごされている様子が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気の中で「地域の中で」「今を楽しく」「家族に安心を」の理念の中で、職員全員が共有し、自治会の行事にも参加が出来るように取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。ミーティング等で共有すると共に、日常業務の中でも確認しあって、理念の実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、総会や掃除に参加し、夏は盆踊り、年末は餅つき大会にも参加し地域の方と交流を深めている。	自治会に加入し、自治会総会や清掃行事に職員が参加している。利用者は盆踊りやしめ縄づくり、餅つきなどに参加して地域の人と交流している他、散歩時に挨拶を交わしたり、果物や菓子の差し入れがある。2ヶ月に1回、地域向けの事業所便りを配布し、自治会や自治会長の協力を得て、認知症サポーター養成講座を開催している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で毎回、自治会長や認知症を支える会の方の参加があり認知症の理解や支援について議論することがある。当ホーム主催で自治会長の協力の元、地域住民に呼び掛けて認知症サポート講座を開催した。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	今回の自己評価では、職員各自でまず、それぞれの自己評価を行い、その後、職員会議にて皆で話し合い評価をした。昨年の評価結果についても職員全員で考え具体策を考え取り組んだ。	管理者、職員は評価の意義を理解している。自己評価は評価項目を職員で分担して記入し、ミーティングで話し合いながらまとめている。評価項目について、全職員が理解しているとは言えない。前回の評価結果をうけて、玄関の施錠について話し合い、改善に取り組んでいる。	・評価項目の全職員での理解	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、自治会長や地域の消防団、認知症を支える会の方、ご家族代表、地域包括の職員等の参加で運営推進会議を開催しその中で様々な意見頂き、サービス向上へ反映出来るように取り組んでいる。	2ヶ月に1回開催し、事業所の活動報告や利用者の状況を報告し、意見交換している。防災や感染症についての意見があり、地域と合同で津波を想定した通報訓練を実施するなど、意見を活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市の地域包括支援センターの職員が毎回必ず、出席して下さり、施設の実状等を報告して意見を頂いていて協力関係は築いている。	市担当課とは、直接出向いたり電話などで、情報交換し協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会も実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関のドアは道路に面しており交通量も多く安全の為施設自体が電子ロックになっている。施錠開放の為、内ドアにセンサーを取り付けて対応している。	研修で学び、全ての職員が正しく理解して、身体拘束をしないケアに取り組み、スピーチロックや薬による拘束も行っていない。昨年の評価結果を受けて話し合い、玄関内側のセンサーの設置や見守りの工夫などで午前中は開錠している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について、研修や勉強会にて虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームには現時点で、成年後見制度等、関係する方はおられませんが、勉強する機会を持ち、活用できるように支援している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の家族には十分な説明を行い、理解、納得した上で、契約を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の声には耳を傾け、ご家族の意見、要望は面接時や運営推進会議にも頂き運営に反映するように取り組んでいる。	苦情の受付体制や処理手続きを定め、周知している。家族からの意見や要望は、面会時や利用料の支払い時、運営推進会議、家族交流会等で随時聞いており、運営に反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を開催し職員の発言の場を設けている。意見や提案があればみんなで話し合いをしたり、連絡帳の活用等でも反映出来ように努めている。	毎月開催している職員会議や職員間の連絡帳等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日々の業務の中で職員が気軽に意見や提案が言えるようにしている。車いすの購入などの意見を、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の意見を聞き、必要な物品等は取り入れて働きやすいように努めている。又、各研修に参加し意欲向上が図れるように対応している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修や施設内での勉強会を行う機会を確保している。また、スキルアップのため職員が積極的に資格を取得できるように努めている。	外部研修は、希望や経験に応じて参加の機会を提供し、受講後は伝達講習を行い、職員間で知識や情報を共有している。内部研修は、毎月テーマを決めて開催している。資格取得の支援もしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が施設外研修や地域ケア会議に参加する機会を得てサービスの質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを通じて本人の思いを引き出し問題点を理解する。本人にとって不安のない安心した暮らしの支援が行えるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に先だっご家族の思いを傾聴し、本人がどのように暮らしたいかなどしっかりと話し合い、家族と共に本人を支えていけるように支援している。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	問題になる事柄に優先順位をつけ、1つ1つ問題を解決していけるように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がどこまで何ができるかをを把握し、できる事が進んで行えるよう声をかけ、終了時には「有難うございました」「助かりました」など感謝の言葉かけを行っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの行事や自治会の行事などをご家族に知らせ、参加して頂きスタッフと一緒に入居者様の支援をされている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、友人の面会時には楽しく穏やかに過ごせる雰囲気作りを行う。馴染みの場所にはドライブなどで巡り、思い出話で盛り上がっている。	友人、家族、親族の来訪がある他、自宅周辺へのドライブ、美容院の利用、自宅への一時帰宅や法事への出席、年賀状のやり取りや電話の支援など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操やレクリエーションでは、入居者全員が参加される事で一体感を持ち、レクリエーションでは出来る方が出来ない方のフォローをしっかりとされている場面がよく見られる。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族様からのお手紙や電話での近況報告などがあり、退所後も繋がりが保てている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活を送る中から会話や行動を通して本人の思いを把握し、困難な場合はご本人に一番合った方法を見つけ統一した対応で支援を行っている。	入居時のアセスメントやセンター方式のシートやひもときシートを活用している他、日々の関わりの中で利用者の思いや希望、意向を把握している。困難な場合はカンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントのみでは把握できなかったことなど本人、ご家族、親戚の方とのなげない会話の中で知る事があり、コミュニケーションをしっかりとるように心掛けている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の介護記録を記入し、又それを確認して毎日の状態を把握している。勤務に入る前には申し送りをし、特変があれば詳しく説明する事で状態が把握できるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回スタッフ全員参加でカンファレンスを開き課題やケア方法などを話し合う。ご家族様とは担当者会議で管理者、担当職員、ケアマネとの話し合いの中で意見を出し合い介護計画の作成を行っている。	サービス担当者会議で、家族、利用者を担当する職員、ケアマネージャー等が話し合い、介護計画を作成している。月1回全職員でカンファレンスを開催している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、状態に変化が生じたときには見直しをし、現状に即した計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入する事によって情報の共有化を図るとともに、問題点があれば記録を残しケアプラン作成の参考にしている。状態の変化があればその都度ケアプランの変更を行い支援している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同系列ではスポーツジムがあり利用できる時には利用し、トレーニングで筋力の低下予防を行う。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域開催の行事に参加した際には地域の皆様が声を掛けてくださったり、入居者様のお世話をして下さる。避難訓練では班の皆様が参加・協力をされる。また、ボランティアの方による舞踊や音楽など開催し楽しまれている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族との相談で、提携病院やかかりつけ医、専門医での適切な治療が受けられるよう診療支援をしている。	本人や家族が希望するかかりつけ医や協力医療機関の受診を家族の協力を得て支援している。協力医療機関の看護師の訪問があり、利用者の健康管理や相談に対応している。必要があれば医師に連絡している他、協力医療機関の緊急時や休日対応など、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に変化等があった場合は提携病院の看護師に連絡・相談をし、必要ならば受診をするようにしている。また、週2回の往診の際に、相談をしたり、様子を診ていただいたりしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者様の生活状況がよくわかるように情報提供書を作成し、担当看護師に渡している。また、退院時にはご家族様と一緒に職員もカンファレンスに同席し退院以降の注意点など今後の支援にむけての話し合いに参加をしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様に状態の変化があればその都度ご家族様と話し、事業所としての出来る事を十分に説明をしている。また、提携病院医師からの指示を受け支援に取り組んでいる。	契約時に事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重症化した場合は、家族や医師、関係者で話し合い、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットなどがあった場合は個々の対応を話し合い、事故防止に努めている。また研修会に参加した職員からは、ミーティングの時に発表してもらったり、定期的にAEDの講習会や消防署主催の救急救命の講習会などにも積極的に参加をして実践力を付けるようにしている	ヒヤリハットや事故が発生した場合は、其々の報告書に記録し、対応策を検討して、再発防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、定期的にAEDの取り扱いや消防署の救急救命講習会に参加しているが、転倒や嚥下、意識不明、離脱など個々の事例について、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練に全職員が参加をし非常時に対応できるようにしている。また、自治会の防災訓練にも参加をしており、非常時には協力していただける体制もしっかりと出来ている	利用者も参加して、年2回、昼夜想定の大規模火災時避難訓練を実施している。地域の人参加し、終了後は気づきや意見を話合っている。声かけの徹底の為にメガホンも備えている。事業所自体が自治会の自主防災会に加入し、災害時の連絡網も整備し、津波を想定した自主防災訓練や通報訓練に利用者も一緒に参加しているなど、地域との協力体制を築いている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の目線と同じ位置で話をし、命令口調にならないように気をつけている。排泄などは本人の自尊心を傷つけないような配慮をしたり、声かけなどを行っている。	利用者の尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや考えなどが言いやすい雰囲気づくりをすることにより自分でしたい事が自由に出来るように支援している。また自分でうまく言い出せない方にはスタッフ側から働きかけて本人の思いをくみ取るようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の状況に応じて何がしたいのか聞いて支援している。本人のペースに合わせて無理のないように出来るだけ希望に沿って支援を行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着は自分で選んで更衣をして頂いている。自己決定出来ない方はスタッフと一緒に選び更衣して頂いている。また、出張理美容を利用し、パーマや毛染等本人の希望によりおしゃれを楽しんでおられる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせた調理・配膳・下膳など出来る事をして頂いている。また、外食ではご家族にも声を掛け、みなさんと食事をして楽しむ機会を設けている。	調理担当職員を確保して、献立を職員が立てて、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者は食材の買い物に出かけたり、配膳や下膳、テーブルふきなどを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話をしながら食事をしている。家族からの差し入れの魚を刺身にして食べたり、おやつづくりや季節のジャムづくり、外食など、食路を楽しむことができるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事が出来るよう献立を考え、カロリー・水分量・食事量なども記録に残して管理している。食事の形態も個人にあわせて食べやすいように工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実践して、清潔が保てるようにしている。自分で出来ない方は、スタッフの介助により口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状態に応じて、必要であれば居室にポータブルトイレを設置し、介助の必要な方へは時間誘導を行う等支援している。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、声かけや誘導など行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の水分摂取量を記録し、排便状況に応じて処方薬の投与を行い、申し送り時に必ず排便状況についての伝達を行い、把握につとめている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一日の入浴者は4～5人となっているが、できる限り利用者様の希望に合わせ、体調の負担を感じないよう心掛けている。	入浴は、毎日13時30分から15時30分まで可能で、利用者の状態に合わせ、普通浴やシャワー浴など入浴を楽しめるよう支援している。清拭での対応もしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の体調や気分に応じて、特に夜間はトイレ後などすみやかに入眠できるよう介助している。日中も利用者様の体調に応じ、休息を設けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様毎に服薬ファイルを作成し、投薬の変更があった場合は必ずスタッフ間で内容を伝達するよう徹底している。服薬の際にはスタッフが付き添い、誤薬防止につとめている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事等、個々の力量に応じてできることを自主的かつやりがいを感じてやっていただけるよう支援している。	塗り絵、習字、編み物、縫物、リハビリや嚥下体操、歌やカラオケ、洗濯物干し、掃除、炊事、おやつづくり、二人体制で行うウサギの世話、散歩や買い物、盆踊り、餅つき、お祭りなど地域の行事への参加、外食、喫茶店に行くなど様々な楽しみ事や活躍できる場面をつくり、張り合いや喜びのある日が過ごせるよう支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加・ホーム内でのイベントをはじめとして、ご家族の方にも協力していただきつつ、利用者様になるべくホームの外部とかかわる機会をもうけ、積極的に参加していただいている。	周辺の散歩や地域行事への参加、買い物、外食、バラや梅などの季節の花見や銀杏や紅葉などの少し遠方へのドライブなど、利用者の希望に添い戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は苑で管理し、個人の希望や必要に応じて、ご本人様同行のうえ、買い物に出かけ購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて自ら電話が出来るように支援している。年賀状や手紙のやりとりも出来るよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	加湿機能付きの空気清浄機を各居室に設置し湿度や温度管理をし、快適に過ごせるように配慮している。食堂、居間の照明も蛍光灯ではなくてあたたかみのある物を使い、家庭的な雰囲気で落ち着いて過ごせるように配慮したり、掲示板や棚を利用し季節感を感じられるコーナーを作っている	加湿機能付き空気清浄機を設置し、温度や湿度、明るさに配慮している。壁面には、季節に合わせた花の写真や行事の写真が貼ってあり、厨房からの調理の音や匂い、窓から見える川の流れや桜並木など、生活感や季節感を感じることができるようにし、家庭的な雰囲気の中で、安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファやテーブル、イスなどを設置し、一人で過ごしたり、気の合った利用者が談笑したり思い思いに過ごせる空間になっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好みのものや家族の写真、カレンダーを飾ったりして、快適かつ安心して過ごせるよう工夫している。	利用者は、使い慣れた布団、衣服、タンス、テレビ、写真等を持ち込み、思い思いの室内装飾をして、安心して過ごせるよう工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分のできることは可能な限りしていただけるよう支援し、廊下、浴室、トイレなど手すりを設置し、安全に配慮しつつ安全かつ自立した支援をしている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームアクア

作成日： 平成 26年 8月 18 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の訓練の練度に不足がある。	応急手当や初期対応の知識や実践についての理解を深め、意識を高める。	月に一度の勉強会を利用して事故発生時等の対応方法を確認する。また、年に2回、消防署指導のもと簡易救急講習を行ったり、外部講師を招いて学習する。	1年
2	4	評価項目の全職員での理解がなされていない。	全職員は自己評価及び外部評価が行われる意義を理解する。	ミーティングを利用し、各項目についてサービス評価項目ガイド集を活用しながら全職員で話し合い理解する。	半年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。